



校報大新

盛岡市立大新小学校
校報 第7号
令和7年8月26日
文責 校長 木内隆友

「ワンチーム大新」の2学期 スタートです！

8月24日（月）30日間の長い夏休みが終わり、いよいよ2学期がスタートしました。始業式では、まず話の前に校長からすばらしいことを2つ、子どもたちに伝えました。それは「6年生が、全校がそろそろまで静かに体育館で待っていたこと」と「まだ休みたい気持ちをおさえて今日登校してきたこと」です。6年生の子どもたちは、予定時刻より約15分前に体育館に入場し、全校の整列が完了するまでずっと静かに待っていました。最高学年が静かにしていると、その後入場してくる他学年も自然と静かになっていきます。おかげでどの学年も静かに入場、整列ができ、落ち着いた雰囲気の中で始業式を行うことができました。

また全校児童に対しては、まだ休みたい気持ちをおさえて今日がんばって登校したことが心の成長につながる大きな一歩であることも伝えました。始業式では次の3つの話をしました。

- ①1学期付けた力は落とさない。新しい力をその上にのせてパワーアップ！
- ②2学期も「ワンチーム大新」～挨拶・黙動・伝え合い～は続く！
- ③学力ゼロの2学期をめざそう！

真剣に話を聞く子どもたちの姿を見て、2学期もさらに幸せな学校に近づく期待感をもつことができました。続いて6年3組高橋 琉瑠（たかはし るる）さんから2学期の決意が発表されました（下に略文を載せます）。

私は、2学期がんばりたいことが3つあります。1つ目は読書です。読書をするといろいろな知識が得られたり、想像力が豊かになったりします。またリラクセス効果があるなど良いことがたくさんあるそうです。なので学校だけでなく、家庭でも時間が余った時など少しずつ読んでいきたいです。2つめはマラソンです。理由は学年があがるにつれだんだん順位が下がってきているからです。そのためにマラソン大会が近づいてきたら、朝早く起きて、家の周りを走って体力づくりをしようと思います。3つ目は授業中の発言です。1学期より手を挙げて発表をしたいです。なぜなら授業がよりわかったり、知識が深まったりすると思ったからです。（中略）私が学校生活で大切にしていることは挨拶です。特に意識しているのは、相手の目を見てその場に合った声でハキハキとすることです。挨拶をすると自分の気持ちもよくなるし、相手の気持ちにも気づくことができます。これは大人になっても大切なことだと思います。みなさんも、何か一つがんばりたいことを決めて2学期過ごしましょう。



2学期は長いようですが様々な行事があり、あっという間に過ぎていくのが特徴です。そんな中で、琉瑠さんのように自分が立てた目標に向かって日々努力し、2学期の終業式時には、自分の成長が実感できるような生活をどの子どもも送れることを願っています。2学期も保護者の皆様、地域の皆様の温かいご協力とご理解をどうぞよろしくお願いいたします。

新しい友達です！



2学期に入り、新しい友達が転校してきました。

いたくら ひとき
板倉 一生さん（写真左 飯岡小学校から 2年2組へ）

こえば りくと
越場 陸翔さん（写真右 城北小学校から 2年3組へ）

これで全校児童数 567名になりました。一生さん、陸翔さんこれからよろしくお願いします！

小学校でも考えてみませんか？

先日、ある中学校の校長先生とお話する機会がありました。そのお話によると今、中学校の生徒指導で一番困っていることは、**ネットトラブル対応**で具体的には**SNSによる誹謗中傷、仲間外れにどう対応するか**ということでした。多くの中学校では、4月のPTA総会時に「**生徒のスマホ所持にかかる責任は家庭の問題。よってそこから発生するトラブルは学校では対応しかねる**」ということを話しているようです。しかし、自分の子どもがSNSで誹謗中傷を受けていると訴えてくる保護者が後を絶たず、そうなると対応しないわけにはいかないということでした。

では小学校ではどうでしょうか？本校の高学年においてもスマホ所持率は年々高くなってきており、中学校ほど深刻ではありませんが似たような事案は発生しています。おそらくあと数年もすれば、さらに小学生のスマホ所持率は上がり、上述のようなトラブルが小学校でも生じる時代がくるのではないかと思います。

「小学生は大丈夫だろう」「うちの子どもにトラブルはおきないだろう」という考えはとても危険です。**子どものSNSの知識は、簡単に大人を超えていきます。大事なことは、我が子に所持させるならばトラブルに巻きこまれる危険性の回避は難しいことを親も子も覚悟することでは**
ないでしょうか。スマホには便利と危険の表裏があることを小学校時代から親子でもっと強く意識することで、中学校でのトラブルを少しでも減らすことができるように考えます。



スマホの所持は、ご家庭の考え・判断によります。ご家庭で話題にしていただけたら幸いです。